# 港北区災害ボランティア連絡会News

事務局　〒222-0032　横浜市港北区大豆戸13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324　FAX 045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

113号
2023年2月

http://kohoku-saibora.jimdofree.com

＊入会は随時受け付けています。
＊あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください 。


# 被災者中心・地元主義・協働

## 災害ボランティアセンター運営で大事なこと

市社協が導入した災害情報システムによる訓練を実施しました。ボランティア受付、ニーズ受付とそれに基づく活動依頼書作成、そして活動報告書がデジタル化されました。訓練の結果数多くの問題点が参加者から出されたので市社協に上げてもらいます。デジタル化は事務作業を効率化してくれますが、その結果生まれる余力は被災者とボランティアに向けられるようなシステムから進化していく必要があります。

被災者中心、地元主義、協働が災害ボランティアセンターの運営での基本精神となります。「すべては被災者のために」とスローガンを掲げてボランティアセンター運営をしたところもありました。

被災地から上がってくる要望(ニーズ)は多種多様です。できないこともあるかもしれません。だからこそ協働が大事になります。様々な専門性を持ったボランティアやボランティア団体、NPOとの協働です。台風で瓦が飛ばされた場合、高所作業に慣れたNPOとの連携が必要です。水害では人では不可能な作業も重機ボランティアが片付けてくれます。士業（〇〇士とつく国家資格保持者）との連携はとても重要です。神奈川では神奈川県大規模災害対策士業連絡協議会(かながわ災害士業ネット)ができています。連絡会のFacebookでよく情報をシェアさせていただいている静岡の永野さんは弁護士として災害者法務相談もしています。

災害にあえば衣食住生活の全てや仕事、将来のことが困難になり1人では解決できないことがたくさん出てきます。災害ボランティアセンターはそれらに対応する力を持たなくてはなりません。単純に被災者が出してきたニーズとボランティアをマッチングさせるだけでは済まないのです。

ニーズを掘り起こす、被災者に問いかけてみるといった作業が不可欠です。そのためには区内の被災状況をはっきりと確認する事が基本になります。情報は区が集約しますから区との連携は必須です。区のボランティア班とどのように連携すればよいかの検討が必要です。また区民やボランティアからの情報を災害ボランティアセンターが独自にまとめる仕組みも必要です。今回の訓練の中でも写真を投稿して地図に反映する案も出されました。まだまだ災害ボランティア運営訓練でやらなければならないことがたくさんあることが見えた今回の訓練でした。

（宇田川）

＊イラストはイラストACよりダウンロードしました

# シミュレーション訓練を振り返って

## チャレンジしないと変われない

1月29日のシミュレーション訓練で、横浜市社会福祉協議会が開発した「災害情報システム」を使っての、当日受付・送り出し・フォローの訓練を行いました。ICTの導入で、災害ボランティアセンターの当日受付・送り出し・フォローが劇的に「進化」するのでしょうか？

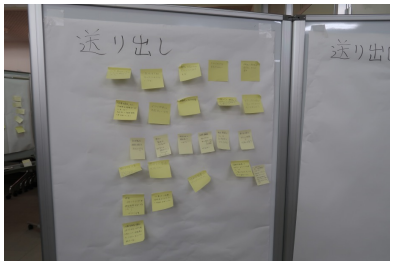
出来上がったシステムだけでは、災害ボランティアセンターの業務効率化はまだまだ道半ばのようですが、変えないと、変えようとチャレンジしないと変わりはしないので、とても意味のあるチャレンジだと思っています。

システム開発当初はどうしても、「え～できないの」とか「これじゃ機能不足だよ」とかの意見満載になります。それは仕方のないことでしょう。まずは使ってみて、不都合なところ、不足しているところを少しずつ改良・開発してシステムを「進化」させることが大切でしょう。当面は、システムと人によるシステムの補完をどうすればいいかを検討することが大切だと思います。「使い物にならない」システムはありません。使おうとすること、改良・開発を続けること、これが重要だと感じています。　（中島）

## 訓練を生かします

１月29日（日）に港北区災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練を行いました。日曜日にもかかわらず、会員のみなさまをはじめ、多くの方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

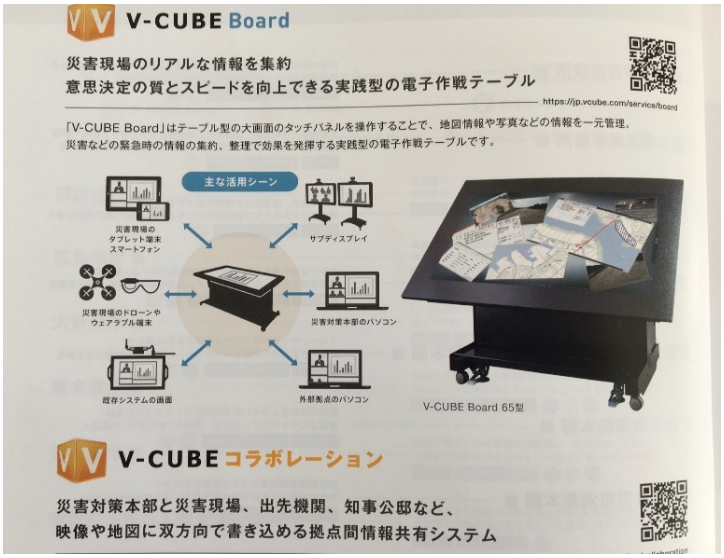
災害情報システムが導入されて以降初めての訓練ということもあり、これまでとは運営体制が大きく変わりました。参加者のみなさまからは、システムや活動依頼書の記入方法などについて、ボランティアのお立場から非常に多くのご意見や気づきをいただきました。今後の災害ボランティアセンターの運営に活かしていきたいと思います。（事務局）



災害情報システム当日受付
（画面サンプル）

# アイデア溢れる防災用品～第27回震災対策技術展～

震災対策技術展は毎年パシフィコ横浜で開かれています。当初に比べると出展社数が減ってきていること、自治体や企業向け商品が多くなってきたように思います。その中で興味深かったのが災害対策本部での情報共有を目的としたシステムです。多数画面を表示できる65インチのテーブル上のボードはタブレットと同様のタッチパネルとなっています。災害情報、救助活動の現況等数多くの情報を一元管理でき、それぞれを室内のパソコンとも共有できる優れものです。災害対策本部に導入すればすごい能力を発揮するものと思わされました。（写真１）




（写真1）

民間用では最近非常に多くなった電動自転車のバッテリーを充電器として使う商品がグッドアイデアでした。電気自動車を電源とするプランはたくさん出されていますが、身近にある電動自転車のバッテリー転用は優れていると思いました。（写真２）また商用トラックにミカン箱程度の大きさに３０人分の災害時緊急用品をセットした商品や、マンションや企業向けの災害用備蓄スタンド（写真３）など優れたアイデア商品が目に付きました。車載用緊急セットは個人的には救急セットも合わせて、各個人が用意すべきものだと強く思いました。

最近増えたものには自治体が作る防災アプリがあります。横浜市の避難ナビ・港北区防災情報アプリは既にインストールしている方も多くいると思いますが、他の自治体のものと見比べるのも面白いと思います。

「スポーツで楽しみながら防災を学ぶ」をうたい文句にした防災スポーツの提案は大いに検討の余地があると思いました。地域防災拠点の訓練立案で悩む関係者にお勧めです。神奈川県もブースを出しており、関東大震災の写真展示に合わせ、感震ブレーカーの設置推進のチラシも置いてありました。連絡会でも導入促進を図った感震ブレーカーですが、なかなか広まらないだけでなく、地域でまとまって導入しなければ地震火災防止効果は発揮できません。ブースにいた職員の方に、東京都のソーラーパネル設置義務のように感震ブレーカーも設置義務化を図ってほしいと提案してきましたが…。

毎年2月にパシフィコ横浜で開催される震災対策技術展は無料講座も数多くあり大変役に立ちます。お近くですから来年は足を運ぶことを強くお勧めします。

（宇田川）

（写真2）

（写真3）

# 震災対応SS(給油所)と住民拠点SS

**1 はじめに**

震災で怖いのは、発災時もそうですが、その後の復旧や復興までの時間がかかる事です。これは市民生活はもちろん、SS(給油所)も同様です。

今は冬の時期で、台風のリスクは減りましたが、地震による被害は常に備えておかなければなりません。

**2 震災対応SS**

あまり聞かない名称かもしれませんが、**震災対応SS**は、地震や停電への対応として、耐震補強、**貯蔵タンクの大型化**、太陽光や内燃機関による**自家発電設備**を備えて、**緊急車両への給油**に対応しています。掲載の写真では、SSの屋根の上に、「震災対応SS」と表示しています。

しかしながら、地震でSS自体が被害を受けたり、ガソリンや軽油の在庫が無くなって、入荷が来なければ、給油は受けられなくなってしまいます。

震災対応SSの例
写真撮影:岩撫

**3 住民拠点SS**

**熊本地震を契機**として、**自家発電設備**を備えて、**住民に対して燃料を供給**する、住民拠点SSを15,000箇所整備する事業が進んでいます。港北区には現在12箇所整備されています。

**＜住民拠点SS一覧＞**

https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/distribution/juminkyotenss/pdf/list.pdf

**＜住民拠点SS場所検索＞**

**https://www.enecho-ss.meti.go.jp/b/enecho/**

住民拠点SS一覧 →
← 同上　場所検索

**4 安心する前に**

「近くに住民拠点SSがあるから安心」と言う前に、日頃から**「いつも満タン」**を心がけましょう。

（岩撫）

防災コラム 「地域防災計画」

地域防災計画は災害対策基本法42条に基づき地方公共団体が作成しなければならないものです。国が作った防災基本計画に基づき、都道府県市町村は地域実態の即したものを作ります。内容としては災害の種類ごとに、災害対策の時間軸に沿って予防、応急対策、復旧についてまとめます。横浜市防災計画は震災対策、風水害対策、都市災害の3編が作られていますが、震災対策編では冒頭に「横浜地震防災市民憲章～私たちの命は私たちで守る」が載っています。

（宇田川）

【編集後記】

○もうすぐ東日本大震災の祈念日です。あの日のことを教訓にしないと。（岩撫）
○この時期になると大川小学校を訪れたことを思い出します。生命を守り育む大切さを再確認したいと思います。（鴨下）
○トルコで大地震。隣国シリアでも被害が、、、 取り急ぎ寄付しました。（室伏）
○シミュレーション訓練、新しいことへのチャレンジ慣れることから始めないと、次のステップには？＜私だけ！＞（付岡）
○世界中での戦争・地震・水害、ハリケーン。寄付以外何もできない自分の無力さを感じます。（中島）